

カーボンオフセットアス ファルトの売買契約締結 NIPPOとENEOS

NIPPOとENEOSは、アスファルト由来の二酸化炭素(CO₂)排出量をライフ・サイクル(LC)を通じて相殺する「カーボンオフセットアスファルト」の売買契約を締結した。CO₂排出量の削減に向けた従来の取り組みをさらに進めるとともに、CO₂排出削減量を売買する仕組みとして世界中の民間団体などが発行する「ボラントリーカーボンクレジット」を活用する。

NIPPOはENEOSを通じて、カーボンクレジットの質を保証する国際基準「Gold Standard」を満たしたボラントリーカーボンクレジットを活用。2025年度から実際にカーボンオフセットアスファルトを使用する。

NIPPO ENEOS カーボンオフセットアス 売買契約を締結

NIPPOとENEOSは、CO₂排出削減量を売買する仕組みであるボラントリーカーボンクレジットを活用した、カーボンオフセットアスファルトの売買契約を結んだ。ENEOSがカーボンクレジットの質を保証する国際的な基準であるGold Standardのカーボンクレジットでオフセットしたアスファルトを、2025年度から使えるようになる。

NIPPOは、温室効果ガス(GHG)排出削減の取り組みの一環で、カーボンオフセットしたアスファルトの導入を進めている。TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言にも賛同しており、30年度のGHG排出目標を設定し、50年のカーボンニュートラル達成を目指している。

ENEOSは、24年1月からカーボンオフセットの燃料の販売を始めている。今回、新たにアスファルトを販売対象に追加した。同社が提供するボラントリークレジットは、国際基準に基づく独自のガイドラインで品質を審査し、合格したものを対象にしている。